

事業活動実績報告書

施設名	あすなろ幼稚園		
教育理念	「さがそうよ、キラキラのじぶん」主体性・共生性・体力を育む		
事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現		
1 事業名	あすなろ木育		
2 実施期間	令和 6年 4月 1日 ~ 令和 7年3月31日		

3 取組概要	(取組日) 令和6年5月30日 ~ 令和6年11月15日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	・木育外部講師を招き、ノコギリやカナヅチ等を使って保護者と一緒に木の作品を作る。土曜開催の自由参加(どうぞの椅子作り)、年長(お箸)、年中(スプーン)、年少(カستاネット)、満3歳(卵型鈴)	
	(取組日) 令和7年1月10日 ~ 令和7年3月13日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
・3学期始業式に園長からのお年玉として全員に一人一つずつ、学年毎に成長に合わせた木製コマを用意し、それぞれマーカーで彩色してオリジナルのコマを作り、遊び、コマ回しの技術を上げながら、日本の伝統遊びを体感する		
(取組日) 令和6年5月14日 ~ 令和6年11月22日		
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること		
・ツリーハウスの最上階でのランチ会に園長が数名ずつ全員招待し、理事長と園長と特別な給食を食べる		
(取組日) 令和6年10月2日 ~ 令和6年12月20日		
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること		
園長の「どんぐりコレクション」にない種類のどんぐりを園長に提出した子は園長から「どんぐり大使」として認定される		

効果検証報告書

施設名	あすなろ幼稚園		
教育理念	「さがそうよ、キラキラのじぶん」主体性・共生性・体力を育む		

事業の区分(5領域)	健康	・	人間関係	環境	言葉	・	表現
1 事業名	あすなろ木育						
2 事業概要	令和 6年 4月 1日 ~ 令和7年3月31日						

計画時	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 ・おもちゃ美術館等を監修する木育推進集団「Tree to Green」より講師を招く。 土曜開催は事前申込制(1回10組×2回のため講師は1人)、保育参加行事として学年ごとに開催する活動は全員参加のため講師2人×4回 ノコギリやカナヅチ等の工具は「Tree to Green」より全て借りる。 材料・工具の園までの配送費は準備費とする。 ・3学期始業式までに各学年の成長に見合う木製コマを人数分用意する。 コマ回しの技術に長けた職員が積極的に子どもたちにコツを伝え、面白さを伝えていく。 ・ツリーハウスランチ会の為、園庭の樹木剪定 ・ツリーハウスランチ会の招待状を園長一人ずつ手作りし、手渡しする。 ツリーハウス最上階まで、招待された子のリュック等の荷物や給食を専用の滑車で引き上げる時にコツが必要で出来る職員が限られている。(汁物もご飯も温かいまま運ぶため、ご飯は専用ジャーを使うなど工夫している) 狭い最上階スペースで行儀よく食べるため、レジャーシートにアウトドア用の1人利用ミニ机も全員分運んで設置している。 夏は暑いので扇風機も運び、冬は寒いのでミニこたつも運び上げて使用している。 ・10月になると「ドングリ大使」を募集し、応募されたドングリが園長のコレクションにまだないものであるか、ドングリ図鑑を使って鑑定し、新種と認定された場合は応募者を「ドングリ大使」に認定して認定証を贈呈する
	事業後 3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 保護者の方と一緒に木育体験を開催することで人的配置が必要。 全学年の木育体験を実施することで人的配置が必要。 ツリーハウスランチ会は熱中症対策が必須。 独楽回しは年々、もともと出来る子が減っているため人的配置が必要になった。 「ドングリ大使」制度は今年度よりInstagramにて投稿したため、更に広くご家族を巻き込んでいき、遠くの親戚からドングリが届くようになったので、なるべく長期に渡って応募を受けようとした。

計画時	4 事業のねらい	木のぬくもりに触れ、自分の手で木片から普段使うものを工具を使って作ったり使ったり、 木製の日本伝統文化であるコマを自分のものとして使いこなすことや ツリーハウスの最上階で特別なランチ会を経験することで 自分が地球に生かされ、命が巡り巡って自分がここにいることを体感する
	事業後 4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 当園は農林水産省の木育認定園として「木育推進パンフレット」にも掲載されているため、木育には大きく力を入れている。きれいなものだけでは育てられない、生きている木独特の汚さや不便さを体感することで育つ「生きる力」を多方面で実践していく。今年度よりInstagramにて「どんぐり大使」を広く募集したことで活動がさらに広がった

5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ・6月15日「どうぞの椅子を作ろう」(10組×2回)、5月31日年長お箸作り(55膳×親子分=110膳)、11月15日満3歳 卵型鈴作り(30名)、5月28日年中スプーン作り(67名)、6月3日年少タマゴカー作り(60名)※全て保護者が来園し、園内で保護者と一緒に講師の指導を受けながら工作を楽しむ。 ・3学期始業式にて年長紐付きコマ・年中三角コマ・年少逆立ちコマ・満3歳かんたんに回るスターコマをお年玉として園長から渡し、マーカーで自分で彩色し、世界で一つだけのコマを作り、3学期いっぱいかけて長期的に自分で回せるように日々鍛錬していきなかにコマに親しみ、回せるようになる喜びや、回すと彩色によって模様が変わる様子を楽しむ。 ・普段は飲食禁止のツリーハウスにおいて、園長から招待状を受け取った子だけが体験できる、当日は特別な持ち物を用意する(レジャーシートなど)、どんなに楽しみにしていても天候に左右される、目の前で荷物が給食が滑車で引き上げられていく、等の特別感を増幅させながら、虫や鳥の声を聞きながら木の上でのランチ会を楽しむことで自分たちが木に包まれているような、地球に抱かれているような浮遊感を味わう。(実施期間は主に春と秋の晴れている日) ・「ドングリ大使」は10月に全園児・全ご家庭に応募を呼びかけ、応募されたものはなるべく早く「ドングリ図鑑」で鑑定し、認定証を渡す
事業後	5についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 ・保護者と一緒に体験した木育体験会では、保護者の方から多くのご好評を頂くとともに、各御家庭でのノコギリやヤスリ等体験の少なさを実感した。今後も登園が担う木育の責任は大きいと感じた ・独楽回しは木と親しむ第一歩となったと感じた ・ツリーハウスランチ会は木登り体験とともに、木に丸ごと抱かれている感覚を味わえる、生涯の思い出になると感じた ・「ドングリ大使」制度は今年度よりInstagramにて広く呼びかけたことで祖父母も巻き込み「休日に家族でどんぐり拾いをした」との報告を受けたり、北海道や沖縄、青森のドングリが届いたり活動が広がっている。
計画時	6 環境構成 ・木工作ではノコギリやカナヅチ、釘、ヤスリ等、普段使わない工具も用いるため、予め床にブルーシートを敷き詰めたり周囲にものを置かないようにしたり保護者が連れてくる未就園児を預かったり、事前に子どもたちに話をしたりして万難を排す。 ・コマを貰ったら日常的に主体的に取り組めるよう、活動と活動の隙間時間をあえて設けるようにする。場所も保育室内ではなく、廊下で活動することで他クラスの子たち同士で刺激しあえるように配慮する。 ・ツリーハウスランチ会とそれに付随する木登り体験のため、4月のうちに園庭樹木剪定を終わらせておく ・友達のツリーハウスランチ会を2階テラスや木の下から声をかけ、招待されていない子・招待されている子双方のやり取りを楽しんで、期待を膨らませる。 ・ドングリ図鑑とドングリコレクション用のケースを用意する
事業後	6についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 園庭の樹木剪定をツリーハウスランチ会が始まる前に終わらせておけるよう配慮した。園児が独楽回しのむずかしさを楽しめるよう、回し方の提案や回せた子への声かけ等工夫だけでなく、コマ・スタジアムなど、集団でコマを楽しむ仕組みなど遊びの提案が必要。

7 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・日常使う椅子や道具を自分で作ることで身の回りのものを大切に扱うようになる。 ・卒園後、コマを回せることがステイタスとなり、小学校や学童でコマを介して最初の友達が出来た、話しかけられた、尊敬された等、自信に繋がる。 ・ツリーハウスランチ会を体験するとそのメンバーの絆が深まる。木の上や虫が怖くなくなる。 ・木を愛し、自然を愛し、自然から学び、自然と共に生きる喜びが育まれる
事業後	7についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 ・日常使う椅子や道具を自分で作ることで身の回りのものを大切に扱うようになった。 ・家族での会話に講師から教わった知恵(温暖化を防ぐために木製品を長く使う必要性や森の寿命の話、工具の扱い方)が話題となり、家庭で再度考えたり味わうことで意識が格段に高まったという話を多く聞いた。 ・卒園後、コマを回せることがステイタスとなり、小学校や学童でコマを介して最初の友達が出来た、話しかけられた、尊敬された等、自信に繋がった。 ・コマ回しを家でも鍛錬することで祖父母等にコツを教わるなど関係が広がった ・ツリーハウスランチ会を体験するとそのメンバーの絆が深まった。 ・ドングリ大使は家族や親戚を巻き込み、木育の可能性を広げた活動となった
8 効果検証 総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 木育認定園として、園児が木を愛し、自然を愛し、自然から学び、自然と共に生きる喜びが育まれることは、地球全体の環境に目を向けていく基盤づくりになると考えている。本事業がその礎になればと願い、またその効果を実感できているので、現状に甘えず、さらに登園独自のユニークな木育活動を次年度もどんどん提案していきたい